

〔volume〕

23

2013 SUMMER

contents

特集：がんセンターオープンのお知らせ

新任のご挨拶

診療科からのお知らせ

医療連携室からのお知らせ

編集後記

予約受付時間を20時まで延長！

これまで16時に終了しておりましたFAX予約受付時間を、今年6月3日より20時まで延長しました（平日のみ）。

夕診、夜診の患者さまのお申し込みにも、速やかにお返事させていただきます。

内容によっては医師あるいは各科外来の確認が必要となるため翌診療日以降の返信になりますが、その際にはご連絡申し上げます。

なお、当日の救急受診などは今まで通り**代表電話 (072-683-1221)** にご連絡ください。



がんセンター オープンのお知らせ

ご挨拶



がんセンター長
黒岩 敏彦
病院長
(広域医療連携センター長)

がんは、昭和56(1981)年より日本人の死因の第1位で、生涯に約2人に1人ががんにかかると推計されています。がんは国民の生命と健康にとって重大な問題であり、がん対策のより一層の推進を目的に平成18年にがん対策基本法が成立しました。基本法に基づき、がん対策を総合的かつ計画的に推進するための「がん対策推進基本計画」が平成19(2007)年6月に策定され、専門的ながん医療の提供等を行うがん診療連携拠点病院の整備が進められてきました。がん診療連携拠点病院は原則二次医療圏に1つであり、当院は三島圏域のがん診療連携拠点病院として重要な役割を担っております。このたび、さらに質の高い全人的ながん医療を継続的に提供することを目的にがんセンターを設立しました。地域がん診療連携拠点病院として機能のより一層の強化・拡充を図るため、臨床・研究・教育の充実をはかり社会に開かれた安全で質の高いがん医療を目指します。



がんセンター前にて



がん専門病棟(24病棟)



植木理事長よりご挨拶

センターの主な業務は

- (1) がんに関する情報の集約分析並びに対がん戦略の企画立案に関すること。
- (2) がん登録に関すること。
- (3) がんの診療に関すること。
- (4) 集学的治療を円滑に行うためのがん治療支援に関すること。
- (5) がんの治験・臨床試験の活性化と支援に関すること。
- (6) がんの先端医療の開発に関すること。
- (7) 広報の活性化並びにがん専門教育研修実施の基盤整備に関すること。

これらの業務を遂行するため、

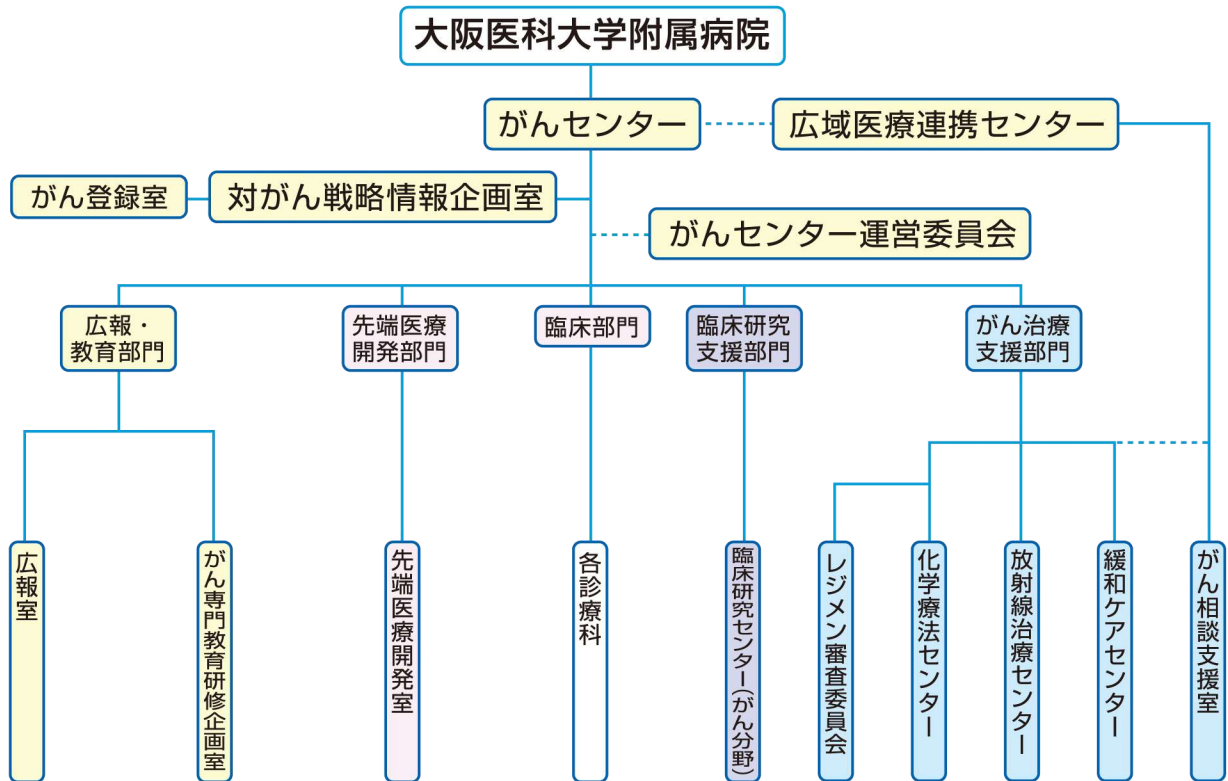
- (1) 対がん戦略情報企画室
- (2) がん登録室
- (3) 臨床部門(各診療科)
- (4) がん治療支援部門
 - ①放射線治療センター
 - ②緩和ケアセンター
 - ③化学療法センター
 - ④レジメン審査委員会
- (5) 臨床研究支援部門
 - ①臨床研究センター(がん分野)
- (6) 先端医療開発部門
 - ①先端医療開発室
- (7) 広報・教育部門
 - ①広報室
 - ②がん専門教育研修企画室

を設置しました。

がん診療に関連する部門をがんセンターとして統括することは、当院のみならず三島圏域全体のがん医療の質と安全の向上に繋がると共に、広い地域からより多くのがん患者様をご紹介いただくための原動力になるものと考えます。大阪医科大学附属病院がんセンターをよろしく願います。

がんセンターの組織

がんセンターの機能は、組織図にもあるように既存の診療科、及び各センター等を横断的に連携することです。更には、各部門を設け関連部署を取りまとめる形で、当院の方向性を病院内に周知できると共に縦割りの不十分な所を補い、病院一丸となって、当院のみならず三島圏域全体のがん医療に取り組んでいく所存であります。

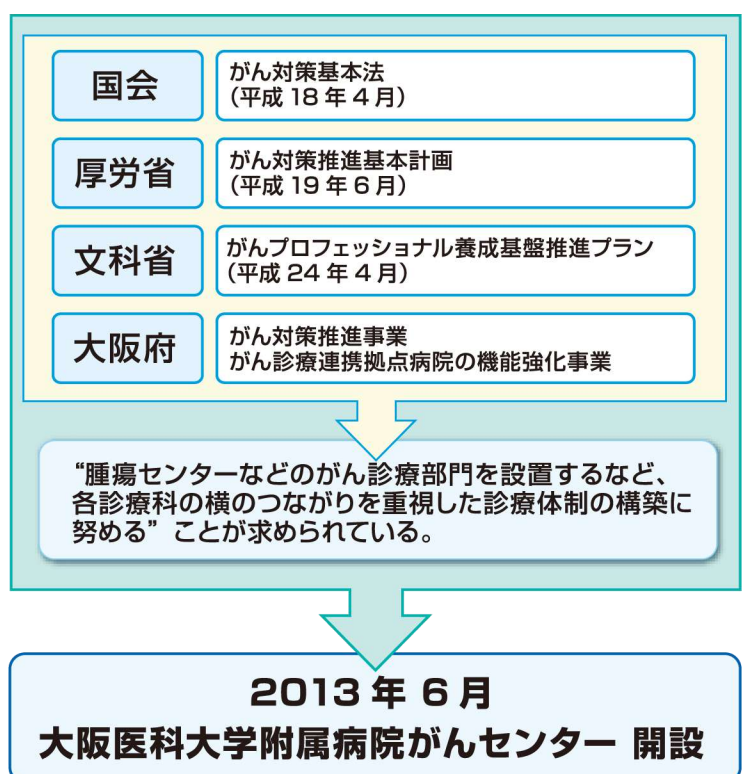


がんセンター設置の背景

当センター設置の背景として、右図のような施策があります。これらを基にがん対策推進事業として大阪府が、がん診療連携拠点病院の機能強化事業を推進しています。

具体的には、腫瘍センター等のがん診療部門を設置するなど各診療科の横のつながりを重視した診療体制を構築することが求められています。

今般当院は、日本でも数少ない各診療科、各部門の横断的な組織体系を組み込んだ包括的がんセンターを設置いたしました。関係医療機関の皆様には、がん診療について更なる連携強化が行えると確信しております。

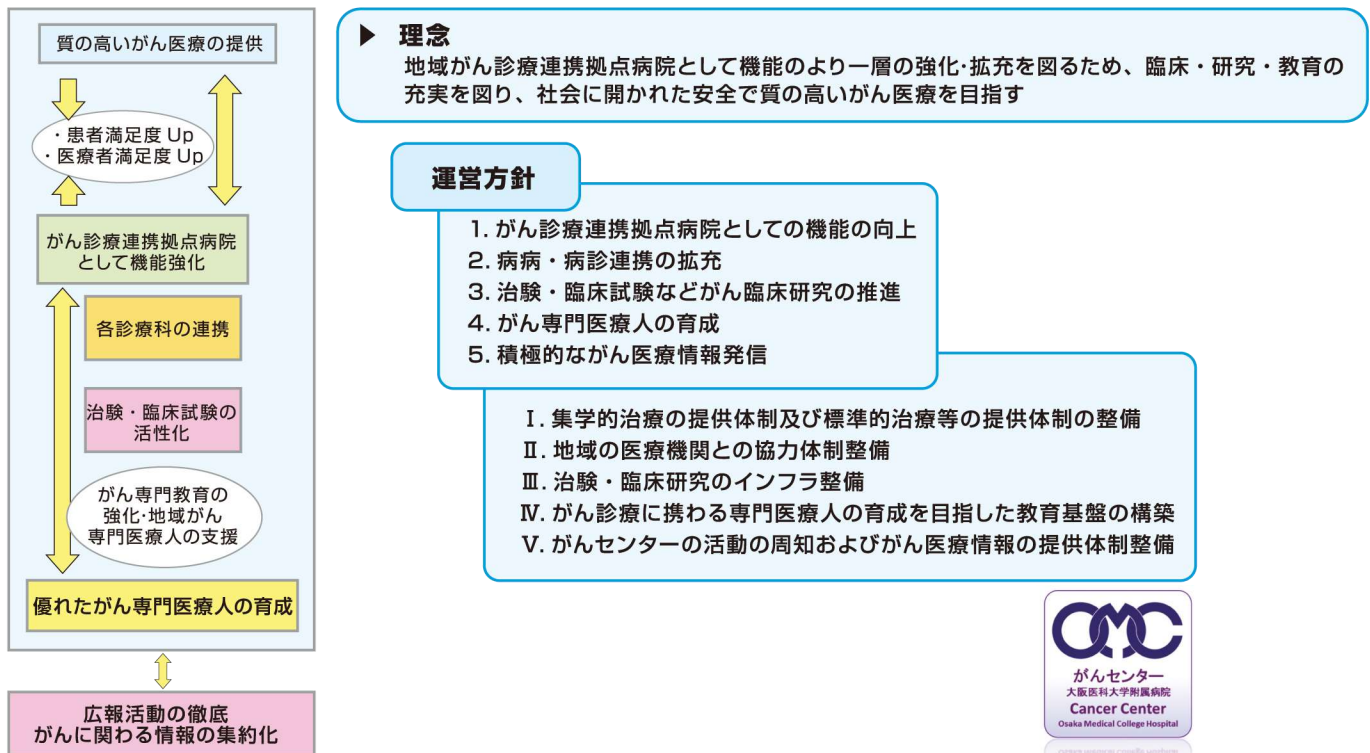


がんセンターのアクションプランについて

当センターの理念は、「地域がん診療連携拠点病院として機能のより一層の強化・拡充を図るため、臨床・研究・教育の充実を図り、社会に開かれた安全で質の高いがん医療を目指す」としています。

運営方針も1.がん診療連携拠点病院としての機能の向上、2.病病・病診連携の拡充、3.治験・臨床試験などがん臨床研究の推進、4.がん専門医療人の育成、5.積極的ながん医療情報発信と、具体的なプランも示しており、診療連携だけでなく、医療従事者の教育、患者さまへの適切な情報発信にも力を注ぎ、医師会の皆様や三島医療圏のがん診療連携拠点病院の方々の協力を頂きながら、三島医療圏全体の医療水準の向上を図り、がん患者の為のより良い医療機関を皆様と共に目指していきたくと考えております。

また、がん疾患の患者さまのご紹介につきましては、これまで通り、広域医療連携センター医療連携室を通じご紹介ください。当該診療科を基に横断的に対応していく所存でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



がんセンター

- センター長：黒岩 敏彦
 - 副センター長：後藤 昌弘
兼務：化学療法センター長、消化器内科
 - 副センター長：藤阪 保仁
兼務：臨床研究センター長、呼吸器内科
 - 看護師主任：上田 育子(がん看護専門看護師)
兼務：がん相談支援室
 - 看護師：今井 麻里子(がん性疼痛看護認定看護師)
- がん治療支援部門**
- 部門長：後藤 昌弘
- 臨床研究支援部門、広報・教育部門**
- 部門長：藤阪 保仁

- 臨床部門(各診療科)**
- 部門長(内科系)：樋口 和秀(消化器内科)
 - 部門長(外科系)：内山 和久(消化器外科)
- 先端医療開発部門**
- 部門長：樋口 和秀(消化器内科)
 - 部門長：東 治人(腎泌尿器外科)
 - 部門長：宮武 伸一(脳神経外科)
 - 部門長：奥田 準二(消化器外科)
 - 部門長：寺井 義人(婦人科腫瘍科)
- 対がん戦略情報企画室**
- 後藤 昌弘、藤阪 保仁
- がん登録室**
- 事務員：手塚 街子(診療情報管理士)
兼務：診療情報管理室

新任のご挨拶

救急医療部

平成25年4月1日着任



救急医療部
科長
高須 朗
(たかす あきら)

この度、4月1日付で救急医療部科長を拝命いたしました。前任の防衛医科大学校病院救命救急センターなどで、3次救急患者を対象に外傷、熱傷、中毒、および重症呼吸・循環不全などのcritical careを中心とした診療を行ってまいりました。当医療地区では三島救命救急センターが3次救急を担っています。数の上では3次救急患者を圧倒的に上回る2次救急医療をより充実させるよう、また、大学病院として重症患者にも対応できるよう、「救急医療は医の原点」をモットーに救急医療部を発展させたく思っております。何卒、ご指導、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

- 専門分野 救急医学、外傷、熱傷、中毒
- 資格 救急医学会指導医・専門医、外科学会指導医・専門医、外傷学会専門医、熱傷学会専門医
- 略歴 昭和61年3月 大阪医科大学卒業
平成5年1月 防衛医科大学校 救急部 助手
平成8年7月 ビッツバーグ大学 fellow
平成11年1月 防衛医科大学校 救急部 講師
平成21年4月 防衛医科大学校 救急部 准教授
平成25年4月 大阪医科大学 救急医学教室 教授
- 特技/趣味 ウォーキング、読書

一般・乳腺・内分泌外科

平成25年4月1日着任



一般・乳腺・内分泌外科
科長
岩本 充彦
(いわもと みつひこ)

この度、4月1日付で一般・乳腺・内分泌外科科長を拝命致しました。乳がんの罹患率は年々増加の一途を辿り、女性に発生するがんの第1位であります。治療法はそのサブタイプにより多岐に亘るため、正確な診断を行った上でEBM(Evidence Based Medicine)に基づき、手術療法、放射線療法、ホルモン療法、分子標的療法等を適切に組み合わせることが極めて重要です。私どもは乳がん患者様の診断から治療に至るまでの全てを一環して担当させて戴いております。またヘルニアの手術においては、優れた整容性と根治性を目指すべく、腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。今後も放射線科、脳神経外科、整形外科など他科の先生方、さらに看護師、薬剤師、理学療法士の方々と協力し、充実したチーム医療を実践すべく、また個々の症例に応じた集学的加療の確立を目指し、努力する所存でございます。さらに臨床試験、研究などを積極的に展開し、国内外への情報発信を継続して参りたいと考えております。今後とも御指導、御支援賜りましたら幸甚に存じます。何卒よろしくお願い致します。

- 専門分野 乳腺外科学、腫瘍学
- 資格 日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医・評議員、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器外科学会認定医、日本乳癌学会施設認定責任者、マンモグラフィ読影資格医、近畿外科学会評議員
- 略歴 平成4年 大阪医科大学卒業
平成5年 大阪医科大学 一般・消化器外科入局
平成6年 ケンブリッジ大学付属 アデブルックス病院移植外科 留学
平成14年 大阪医科大学 一般・消化器外科 助教
平成22年 大阪医科大学 一般・乳腺・内分泌外科 講師
- 特技/趣味 旅行、映画鑑賞

臨床研究センター

平成25年2月1日着任



臨床研究センター
センター長
藤阪 保仁
(ふじさか やすひと)

先生方におかれましては、日頃より多大なるご支援を頂き誠にありがとうございます。当センターは、患者様の権利を尊重し倫理性を保った治験・臨床試験が行えるよう活動しております。経済のグローバル化が急速に進んでいますが、新薬開発の分野も例外ではありません。施設、地域、国の垣根を越えた開発臨床試験が進められており当センターも、この流れに対応しつつ、ドラッグラグの解消・さらなる効率的な臨床開発の体制整備を行っております。その取り組みの一つとして、臨床治験センターから6月に臨床研究センターへと改称いたしました。各分野のプロフェッショナルがそろう大阪医科大学附属病院の強みを十分に活かし、より一層、早期開発臨床試験にも力を注ぎたいと考えております。ここ北摂"高槻"から世界に向けて、新薬や医療機器の迅速な開発を支援して参ります。そして先生方へ、患者様へより良い薬・治療法をより早く導入できますよう努力して参ります。これまでと同様、ご協力・ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

- 専門分野 新規抗がん剤早期開発(第I相試験)、臨床腫瘍学
- 資格 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本臨床腫瘍学会指導医・評議員、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本臨床薬理学会特別指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本サイコoncロジー学会代議員・コミュニケーション技能訓練ファシリテーター
- 略歴 平成10年 大阪医科大学 卒業
平成12年 国立がんセンター中央病院 内科レジデント
平成15年 国立がんセンター中央病院 がん専門修練医(内科・治療開発)
平成17年 大阪医科大学附属病院呼吸器内科 助教
平成21年 近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門 講師
平成25年 大阪医科大学附属病院 臨床研究センター 講師・センター長
- 特技/趣味 人の笑顔をつくること、大阪医科大学陸上競技部で学生と走ること

◎ 診療科からのお知らせ

平成25年6月1日より、下記のとおり診療科名を変更いたしました。

膠原病内科 → **リウマチ膠原病内科**

泌尿器科 → **腎泌尿器外科**

患者さまにはわかりやすく、先生方には両科の充実した診療内容をお伝えできるような診療科名になっているかと存じます。気持ちも新たにこれまで以上に患者さまのために真摯に診療に取り組んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療連携室からのお知らせ

< 当院専用「診療情報提供書」廃止のお知らせ >

当部署発足以来当院専用の「診療情報提供書」を先生方にお送りしておりましたが、このたび廃止させていただきます。先生方が普段お使いの書式をご利用ください。「FAX申込用紙」と「紹介状用封筒」はこれまで通りご用意しておりますので、ご入用の際は医療連携室までお申し付けください。

< 事前FAX予約のご協力をお願い >

当院ではご紹介患者さまに対し優先的な診察枠を用意し、事前FAXでのご予約を受け付けております。事前にご予約いただきますと初診受付での手続きなしに診療科へ直行できます。

ご予約せずに来院された場合は、待ち時間が大変長くなったり、後日の再来院をお願いすることもあります。

ご予約は医療機関さまからのみ受け付けております。できるだけ早い返信を心がけておりますのでご協力をお願いいたします。

編集後記

帰省の折り、せっかくだからと父と水入らずで、スーパー銭湯に行った。

裸になった風呂場でどういうわけか父が「息子が大阪から帰ってきているんだ。大した息子なんだ」と、あちこちの人に突然声をかけ出した。

気味悪がる方に、私は会釈しつつお詫びしながら、父を自制する。

アルツハイマー病におかされた父の初期の姿だった。

所持金などないはずなのに2日間家を離れて徘徊。前歯がなくなり、傷を受け、ボロボロになって帰ってきた。

想像もつかない距離をひたすら歩き続けるものだから、ふくらはぎは鉄のように硬くなる。

言葉が単語の羅列に変わり、独り言になっていく。急に、笑って意味なく拍手する。私も喜んで一緒に拍手した。

闘病生活が約10年。いよいよ、その父が2月に逝った。

辛く分かってはいたものの、現実となると、経験したことのないほどの激しい痛みを経験した。

苦しいが、だからこそ父の病と死の意味を考える。そしてメッセージとして受け止める。

「生きろ」精一杯、この瞬間を生きているか。父の日常をだぶらせ、静かに思い返す。(M.M)



医療連携室ご利用のご案内

■ 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00

土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受付は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

■ 送信先

FAX.072-684-6339

大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表)内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)

● 当院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。お手数ですがご利用の場合は、電話又はFAXにてご請求ください ●